HONDA
汎用製品

除雪機

HS550

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

は　じ　め　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ……4
安全ラベル ……8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう ……10
エンジン　スイッチ ……12
燃料コック　レバー ……12
チョーク　ノブ ……13
始動グリップ ……13
投雪方向調節ハンドル ……14
除雪クラッチ　レバー ……14
雪かき棒 ……15

エンジンをかける前に点検しましょう ……16
ガソリンの点検 ……16
エンジン　オイルの点検 ……17

エンジンのかけかた ……18

運転操作のしかた ……21
始動 ……21
運転操作 ……21
除雪のしかた ……23

除雪機の止めかた ……25

定期手入れを行いましょう ……27
日常点検 ……27

定期点検を受けましょう ……28

やさしい点検・整備 ……29
エンジン　オイルの交換 ……29
点火プラグの清掃、調整 ……31
スクレイパ　ブレードの点検、調整、交換 ……32
除雪クラッチ　ケーブルの点検、調整 ……34
オーガ　ベルトの点検 ……36
オーガ　ラバー、ブロワ　ラバーの点検 ……37

長期間使用しないときの手入れ ……38

故障のときは ……40

主要諸元 ……42

同梱部品の組付け方 ……43

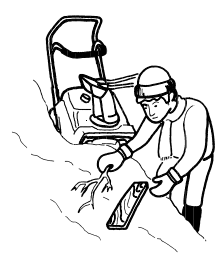
安全にお使いいただくために

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(16、17頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等防寒用の身支度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

これだけはぜひ守りましょう

警告

- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。
- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。
- 雪のない場所を移動する場合はエンジンを停止しハンドルを押し下げて行ってください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。

警告

- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し（31頁参照）、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 駐車をするときは平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

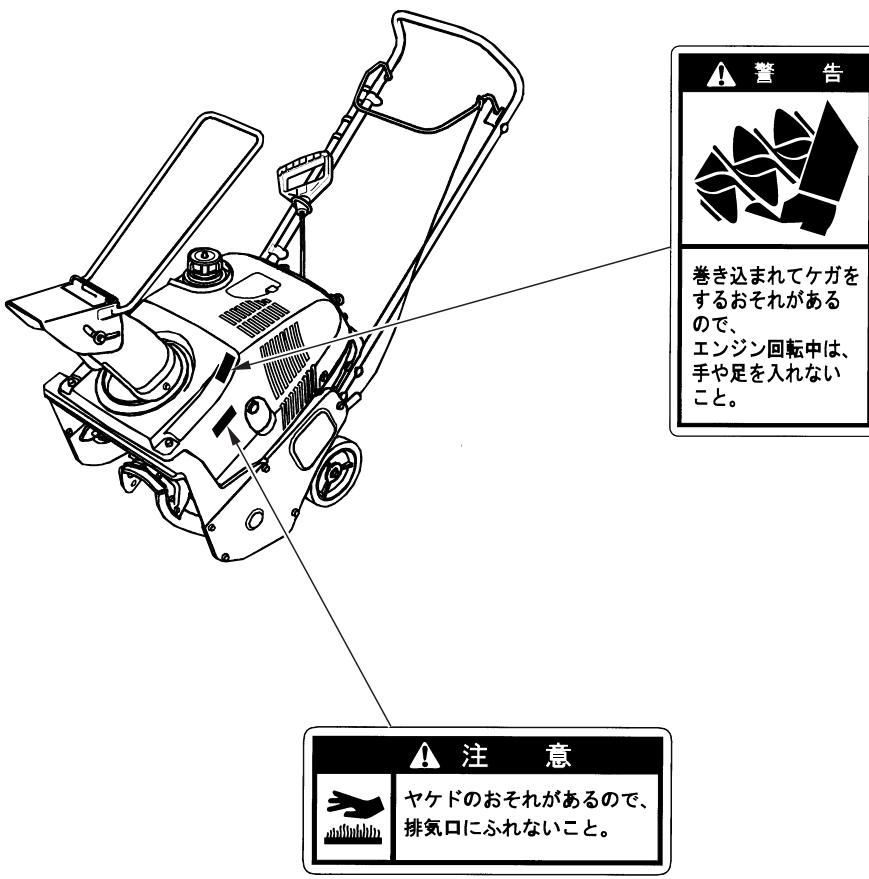
●作業が終ったら

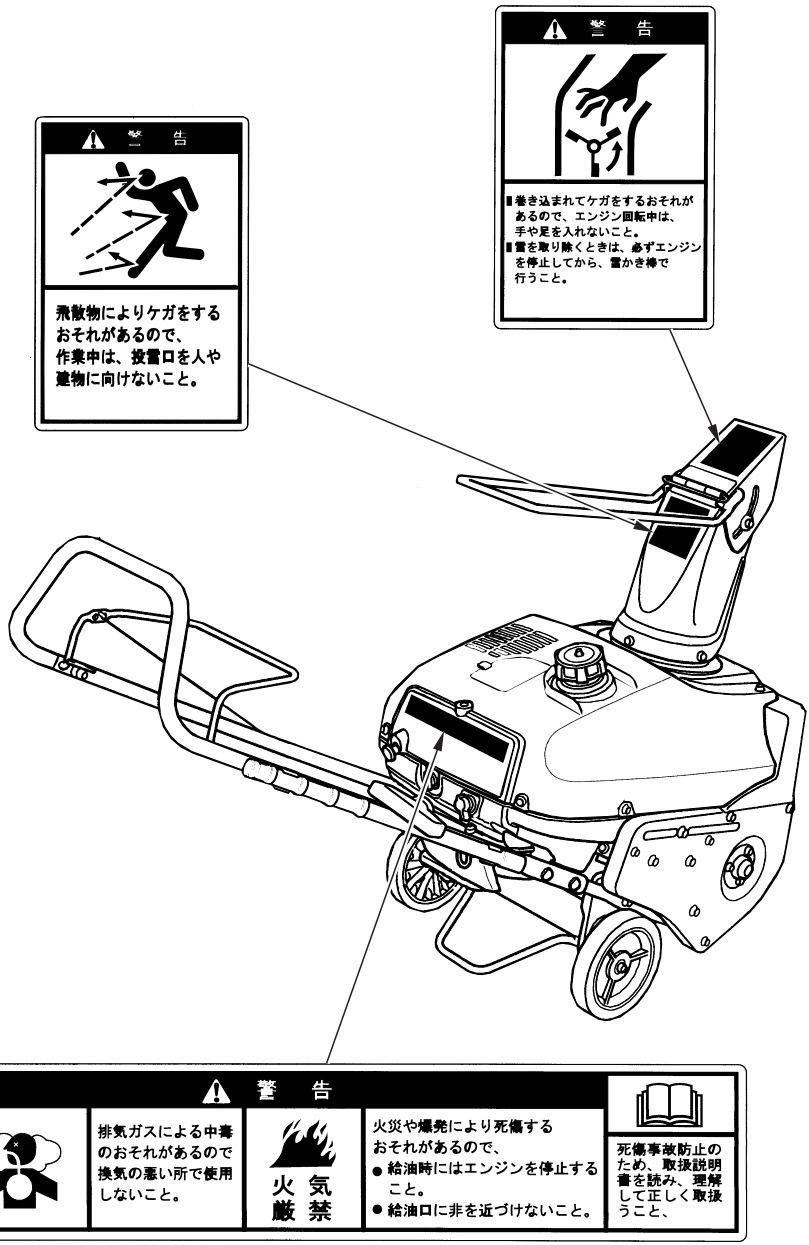
- 本機から離れるときには、必ずエンジンを止めてください。いたずらなどで本機が動き出し、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

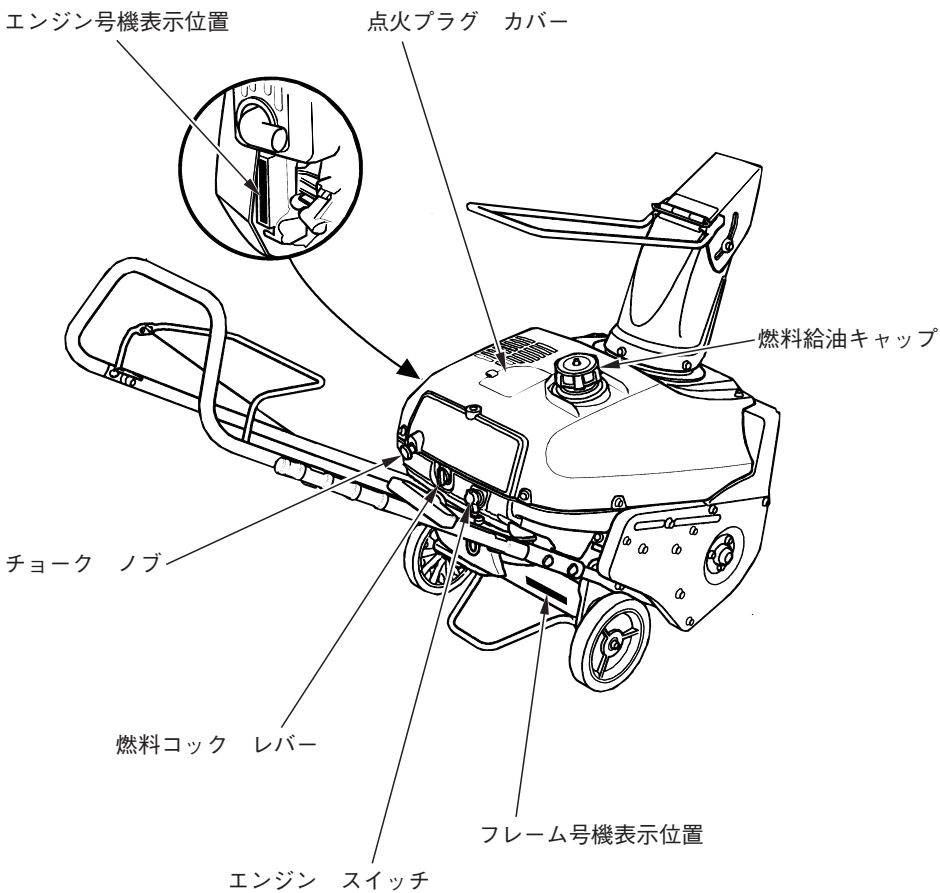
除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

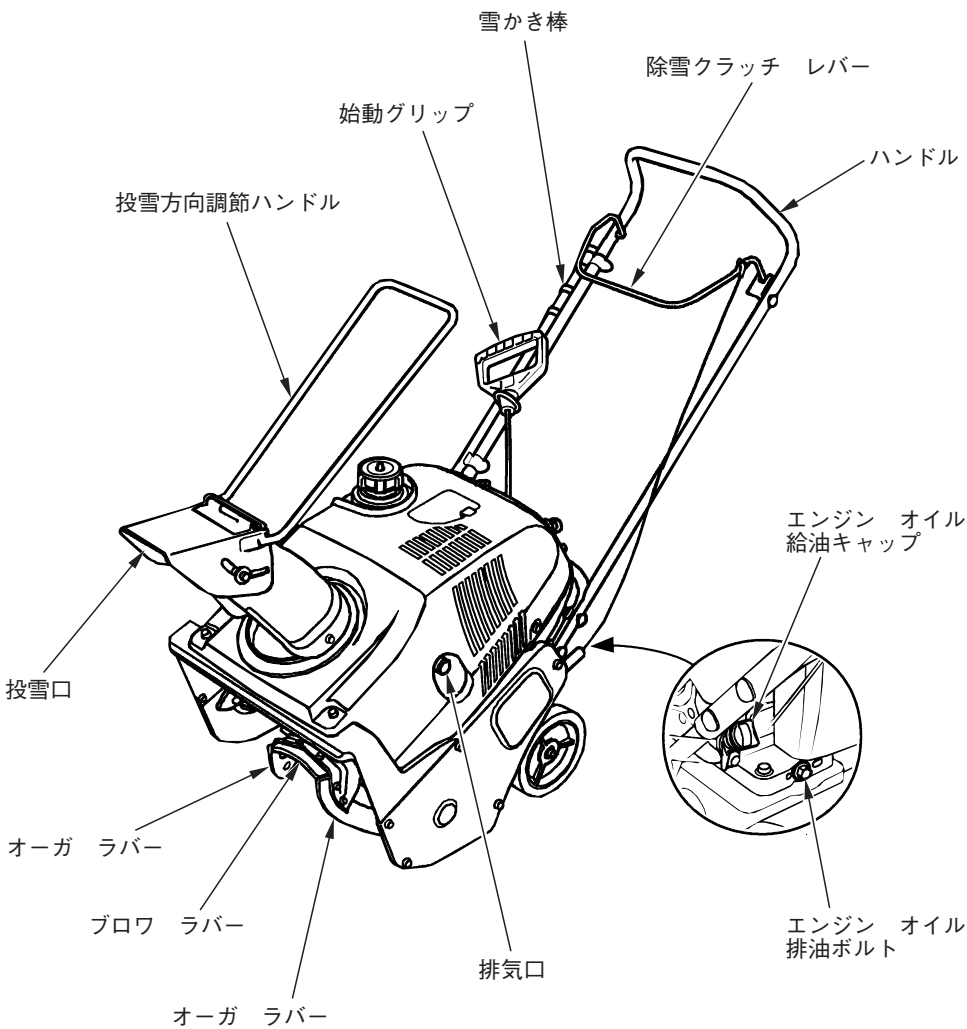
本機に貼ってあるラベルが、破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




警 告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、
作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
警 告
■巻き込まれてケガをするおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取り除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないこと。
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止すること。
● 給油口に非を近づけないこと。
死傷事故防止のため、取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

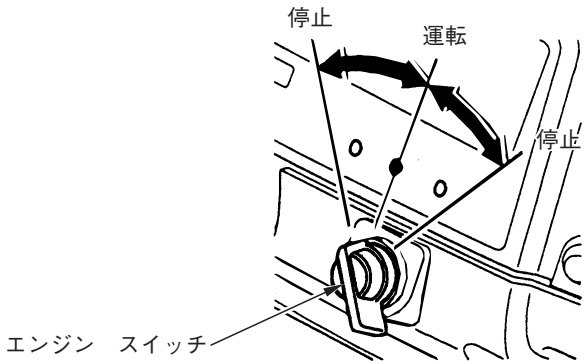
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




雪かき棒
除雪クラッチ　レバー
始動グリップ
ハンドル
投雪方向調節ハンドル
エンジン　オイル
給油キャップ
投雪口
オーガ　ラバー
ブロワ　ラバー
排気口
エンジン　オイル
排油ボルト
オーガ　ラバー

エンジン　スイッチ

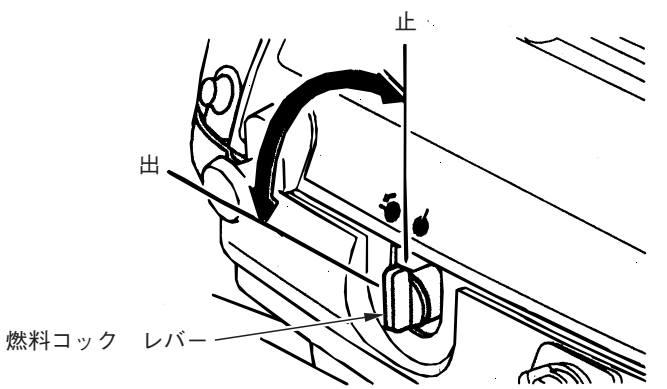
エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。



燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータ（気化器）までの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に“止”“出”の位置に合わせます。

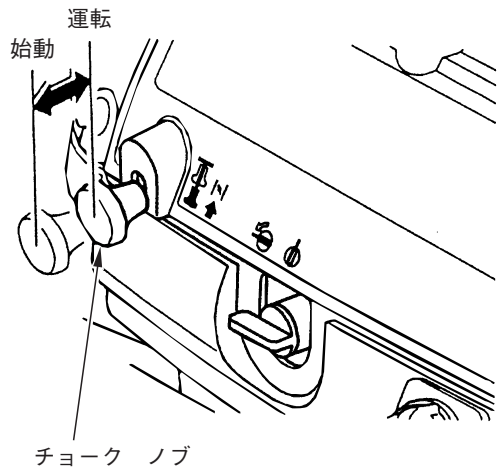


⚠警告

本機を運搬するときや、保管及び点検整備時本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

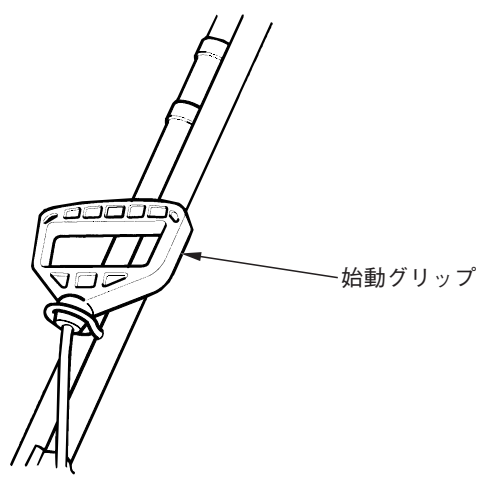
チョーク　ノブ

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



始動グリップ

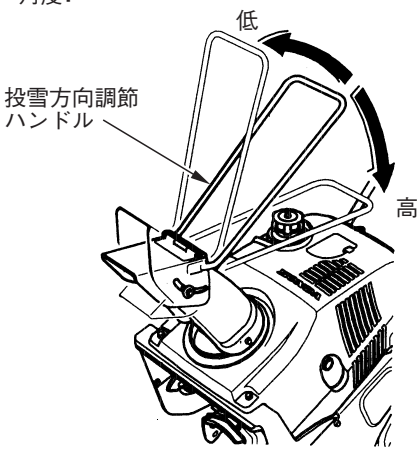
エンジンを始動するときに操作します。



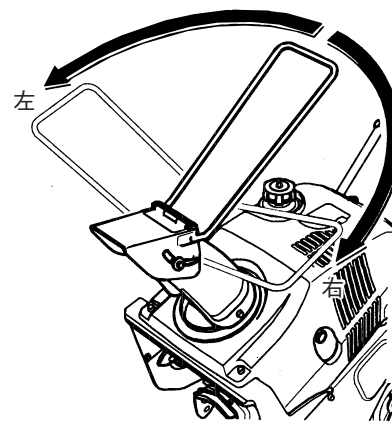
投雪方向調節ハンドル

ハンドルを操作することにより、投雪角度と方向を変えることができます。

角度:



方向:



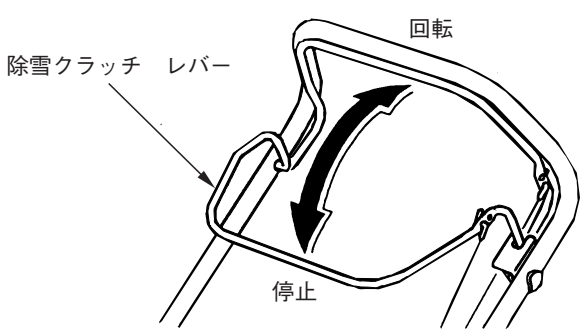
除雪クラッチ　レバー

除雪クラッチ　レバーを握ると除雪部が回転し、はなすと停止します。

除雪クラッチ　レバーはゆっくり操作してください。

取扱いのポイント

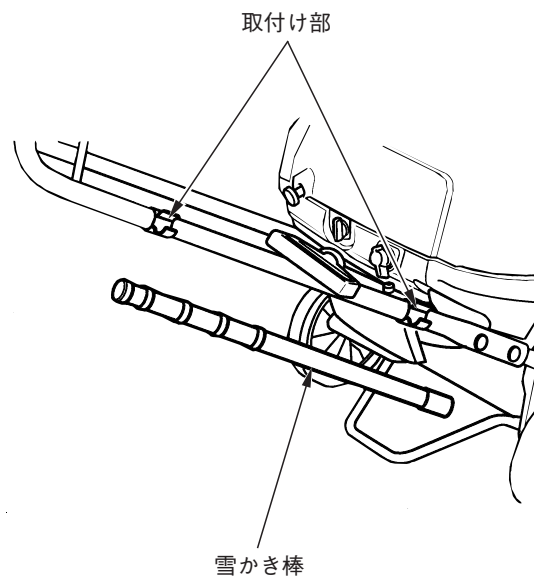
除雪クラッチ　レバーは完全に握ってください。途中で止めて使用すると、オーガ　ベルトの寿命を縮めます。



雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。



エンジンをかける前に点検しましょう

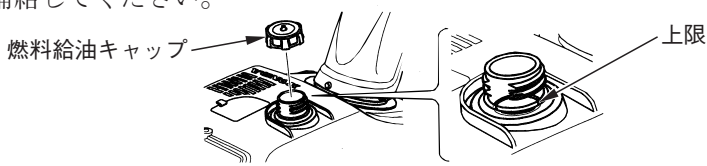
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップをはずして行ってください。

ガソリンの点検

点検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。少ない時には図の位置（上限）まで補給してください。



補給

使用燃料：自動車用無鉛ガソリン

タンク容量：1.3ℓ

- 燃料給油キャップを外し、図の位置（上限）まで補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

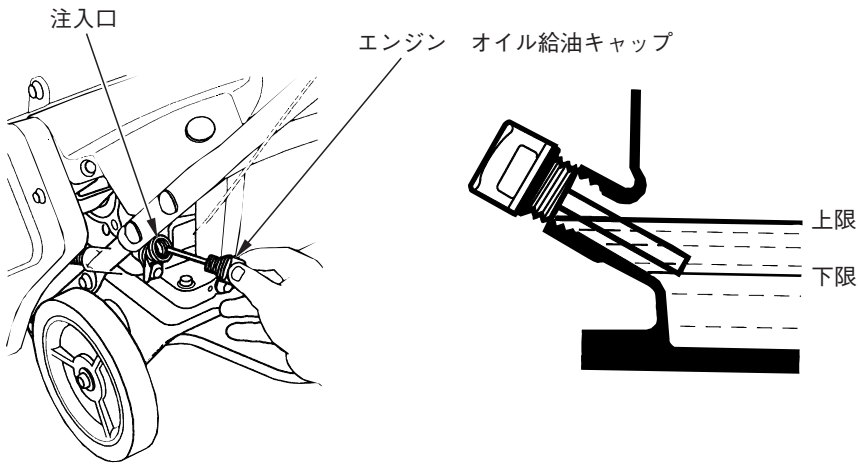
取扱いのポイント

除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

エンジン　オイルの点検

点検

エンジンを水平にしてエンジン　オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補給

・油面が下限に近いときには新しいオイルを口元まで補給します。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は29頁参照)

推奨オイル：
（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。
オイル容量：0.6ℓ

取扱いのポイント

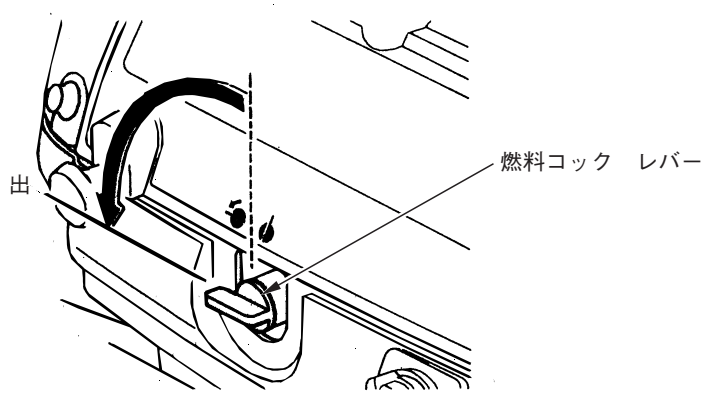
オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

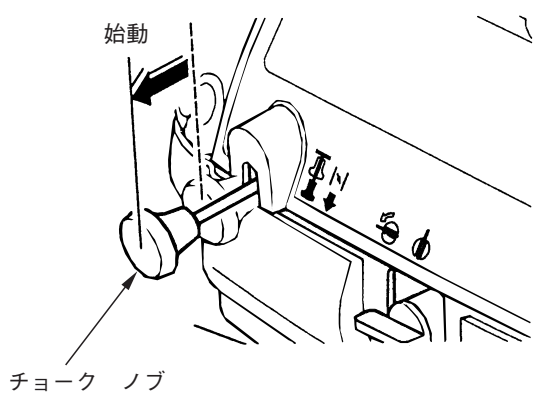
⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。

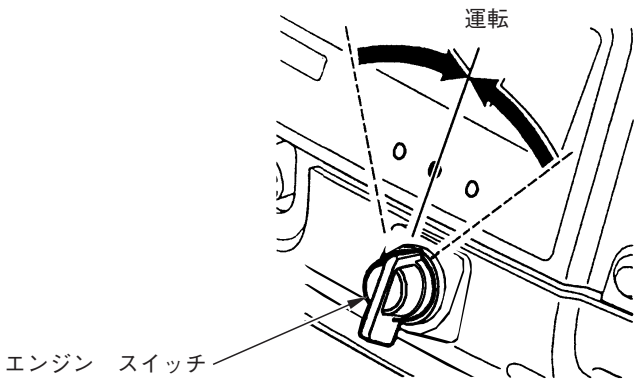
1. 燃料コック レバーを**“出”**の位置に合わせます。



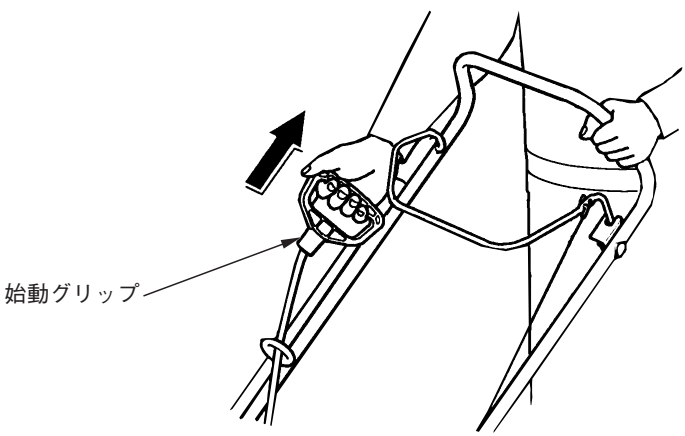
2. チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。



3. エンジン スイッチを“運転”に合わせます。



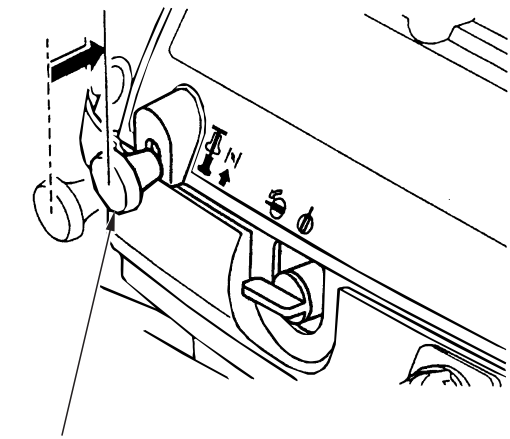
4. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5. 始動後、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク　ノブをいっぱいに戻し、暖機運転を行ってください。



チョーク　ノブ

運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

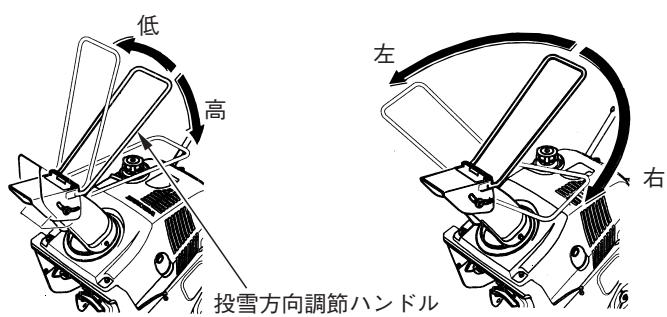
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

始動

始動については 18頁～20 頁を参照してください。

運転操作

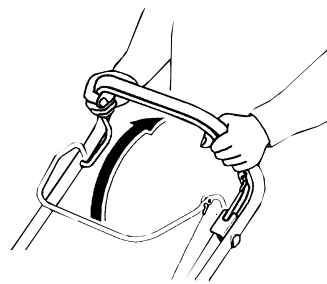
1. ハンドルを押し下げ、除雪部を少し上げて、本機を移動させます。
2. 投雪方向調節ハンドルを操作します。
   投雪したい方向、距離に合わせて調節してください。



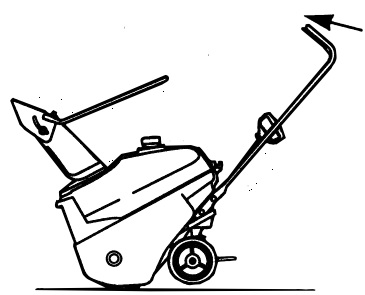
⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには人や窓ガラス等に注意して行なってください。

3. 片手でしっかりとハンドルを握ってください。
4. もう一方の手で除雪クラッチ　レバーをゆっくり引き、両手でハンドルと除雪クラッチ　レバーを握ってください。除雪クラッチ　レバーを握ると除雪部が回転し、レバーを放すと除雪部の回転が止ります。



5. 除雪部は通常の状態では接地しておりません。ハンドルを少し持ち上げるようにして接地させると除雪機は前進します。ハンドルを押し下げると前進は止まります。作業に合わせてハンドルを上げ下げしてください。



取扱いのポイント

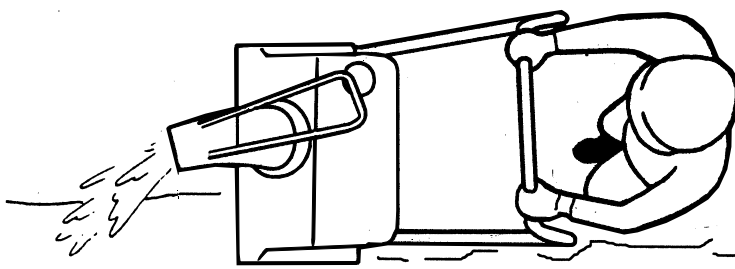
- ハンドルを持ち上げ気味にしてもオーガが接地せずに前進の力が得られない場合はスクレイパ　ブレードの点検(32頁参照)、オーガ　ラバー、ブロワ　ラバーの点検(37頁参照)を行ってください。
- 足元には十分注意してハンドルをしっかり握り、けして走らないでください。
- ハンドルを持ち上げすぎるとスクレイパの下から足元に雪がふき出すことがあります。

除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。エンジン回転が落ちる場合は、次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

- **除雪幅を狭くする方法**

  深い雪や、固くなったりした雪の場合は、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



取扱いのポイント

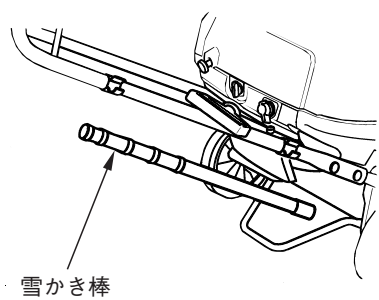
新雪以外の固くなった雪などはスコップ等で砕くか削ってから作業を行ってください。投雪方向角度は十分注意してください。

• 投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

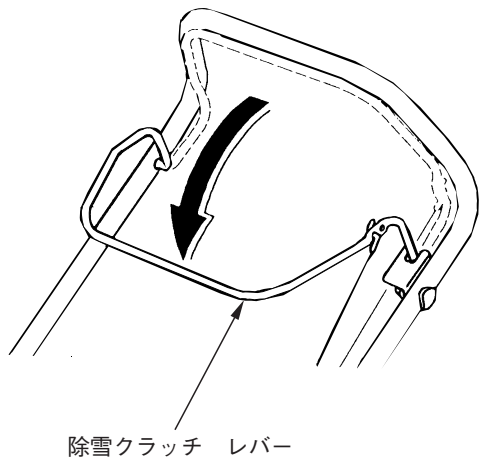
投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。
   雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

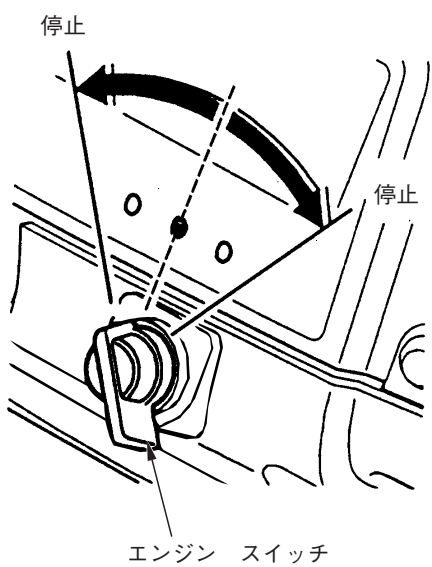


除　雪　機　の　止　め　か　た

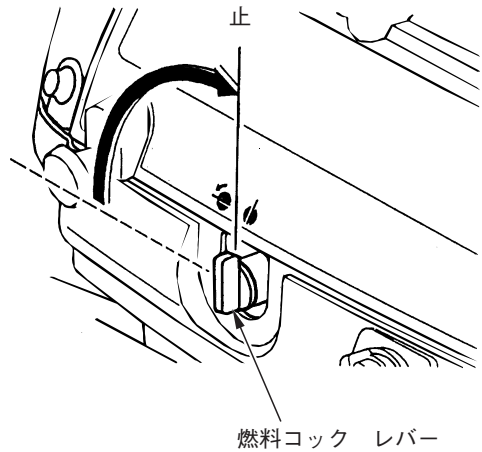
1.除雪クラッチ　レバーから手を離します。除雪部の回転が停止します。



2.エンジン　スイッチを“停止”の位置に合わせます。



3.燃料コック　レバーを“止”の位置にします。

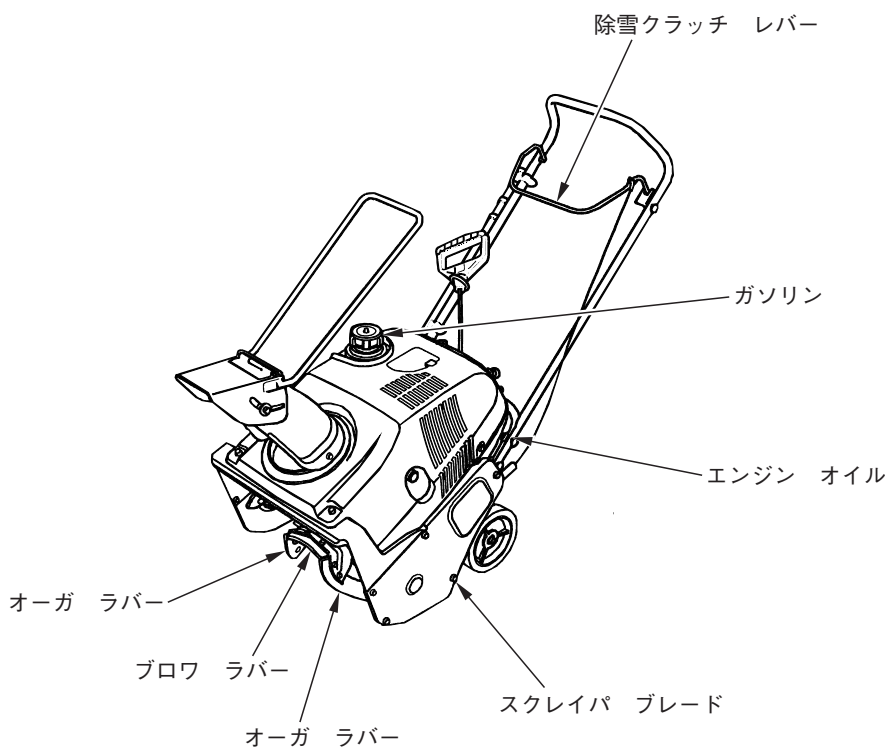


定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン　オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- ガソリン……残量
- 各部の締付け……ハンドルのがたはないか。
- 除雪機能……オーガ　ラバー部、ブロワ　ラバー部、スクレイパ　ブレード部に異常はないか。
- 異常箇所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買い上げ販売店へお申しつけください。



定 期 点 検 を 受 け ま し ょ う

販売店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に実施していただく項目があります。お買いあげいただきました除雪機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期(1)		作業前点検	初回 1月目または 20時間目	シーズン毎 除雪時期 初め	シーズン毎 除雪時期 終り	4年毎
エンジン　オイル	点検･補給	○				
	交換		○	○		
点火プラグ	点検･調整			○		
	交換					○(または 125時間 運転毎)
スクレイパ　ブレード	点検･調整	○		○		
オーガ　ラバー　パドル	点検	○				
	交換					○(5年毎)(2)
各部の締め付け	点検	○				
燃料タンク、 キャブレータの燃料	抜き				○	
格納時の各部防錆､給油	給油				○	
除雪クラッチ　ケーブル	点検･調整			○(2)		
オーガ　ベルト	点検･調整			○(2)		
吸入､排気弁すき間	点検･調整			○(2)		
燃焼室	清掃	125時間運転毎(2)				
燃料タンク､ろ過網	清掃					○(2)
燃料チューブ	点検	2年毎(2)				
	交換					○(2)

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

やさしい点検・整備

⚠警告

- 点検･整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し､誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし､点火プラグ　キャップを取外して行ってください。
- 屋内や換気の悪い場所では､エンジンをかけないでください｡有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます｡交換時期､オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間運転時､以後：年 1 回除雪時期の初め

《推奨オイル》

Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE､SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。

《規定量》

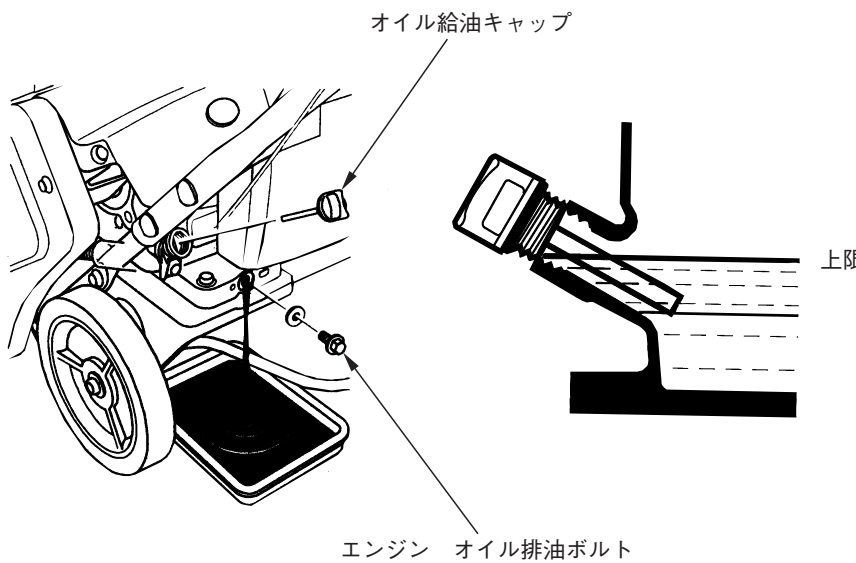
0.6 ℓ

⚠警告

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています｡十分冷えてからオイル交換を行ってください｡やけどをするおそれがあります。

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
   排油ボルトを外すときは12 mmスパナを使用してください。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けます。
3. 新しいエンジン　オイルを口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けらています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。

点火プラグの清掃、調整

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

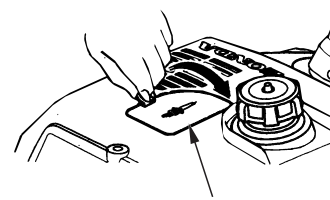
電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

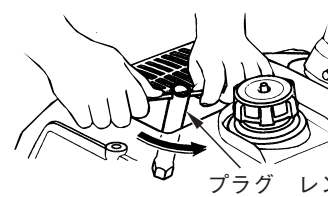
《清掃時期》

年一回除雪時期の初め

《清掃のしかた》

1. プラグ　カバーを開き、プラグ　キャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。





《調整》

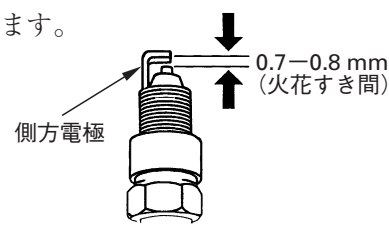
《調整のしかた》

側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

適正すき間：0.7－0.8 mm

《指定プラグ》

BPR5ES (NGK)



取扱いのポイント

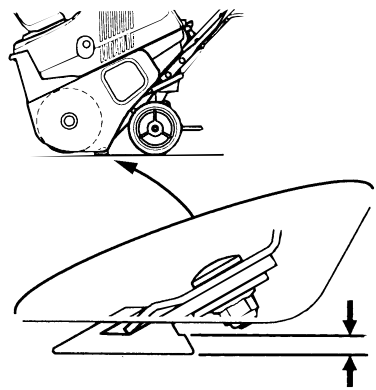
- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

スクレイパ　ブレードの点検、調整、交換

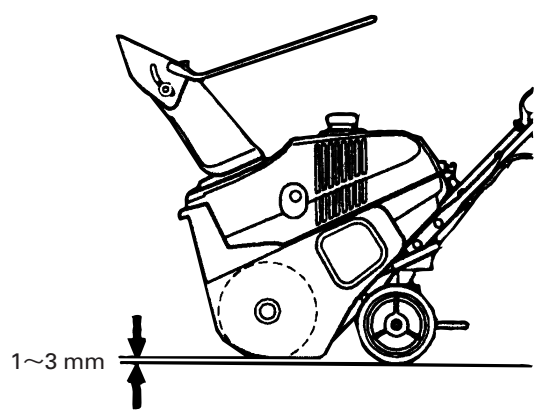
スクレイパブレードが摩耗したり、セット位置がずれたりすると仕上がり性が悪くなります。

《点検》

1. 本機を平坦な所にセットして、スクレイパ　ブレードが地面に均一に当たっているか点検します。均一に当たっていない時はスクレイパ　ブレードを調整します。
2. スクレイパ　ブレードの摩耗が使用限度を越えている場合は新品と交換します。

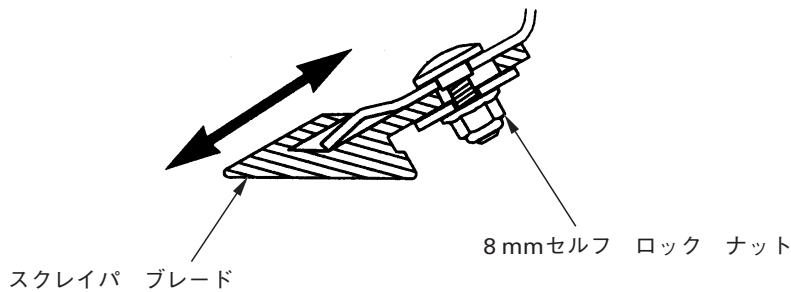


3. ブロワ ラバー先端と地面との最小すきまが下記数値内にあるか点検します。
   最小すきま：　1－3 mm



《調整》

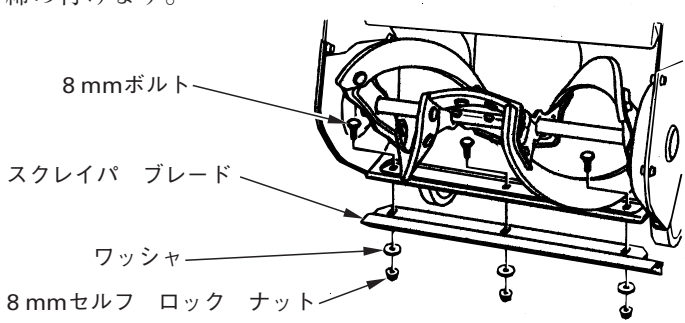
1. 8 mmセルフ　ロック　ナットをゆるめます。
2. スクレイパ　ブレードをずらして調整します。
   隙間が規定値内に調整できない場合はスクレイパ　ブレードを交換してください。



3. 8 mmセルフ　ロック　ナットを確実に締め付けます。

《交　換》

1. 8 mmセルフ　ロック　ナット、ワッシャを取り外します。
2. 8 mmボルトを外し、スクレイパ　ブレードを外します。
3. 新しいスクレイパ　ブレードを、8 mmボルト、ワッシャ、8 mmセルフ　ロック　ナットで取り付けます。
4. スクレイパ　ブレードの位置を調整し、8 mmセルフ　ロック　ナットを確実に締め付けます。



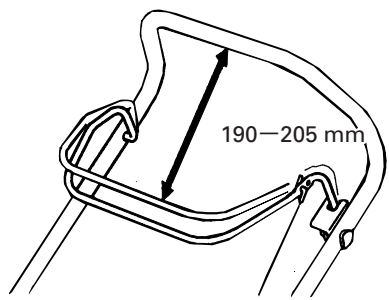
除雪クラッチ　ケーブルの点検、調整

《点検》

除雪クラッチ　レバーを動かし、レバーが重たくなる位置でのハンドルとの距離を測定します

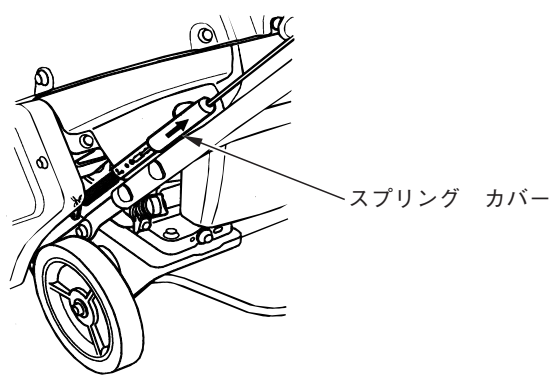
ハンドルと除雪クラッチ　レバー間の距離：190－205 mm

規定値外の場合は調整します。

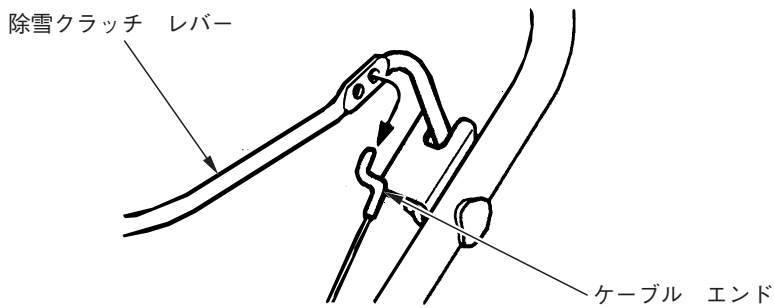


《調整》

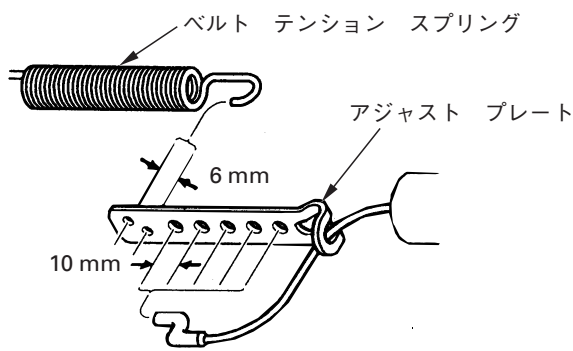
1. スプリング　カバーを引き上げます。
2. ケーブル　エンドとベルト　テンション　スプリングの取り付け位置を記録します。



3. 除雪クラッチ　レバーからケーブル　エンドを外します。
クラッチ　レバーを握った状態で、クラッチ　ケーブルを押さえながらクラッチ　レバーを戻すと外しやすくなります。



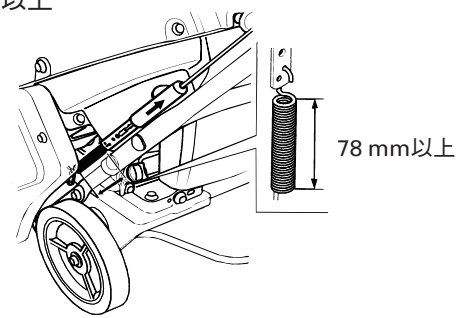
4. ベルト　テンション　スプリングとクラッチ　ケーブルの取り付け位置を変更して、調整します。
クラッチ　ケーブルのケーブル　エンドの差し込み位置を変更する場合はケーブルを十分に引き出し、折れ曲がらないように注意してください。



5. レバー側のケーブル　エンドを除雪クラッチ　レバーに接続し、再度点検します。
6. 除雪クラッチ　ケーブルの調整後、オーガ　ベルトの点検を行います。
7. スプリング　カバーをアジャスト　プレートにかぶせます。

オーガ　ベルトの点検

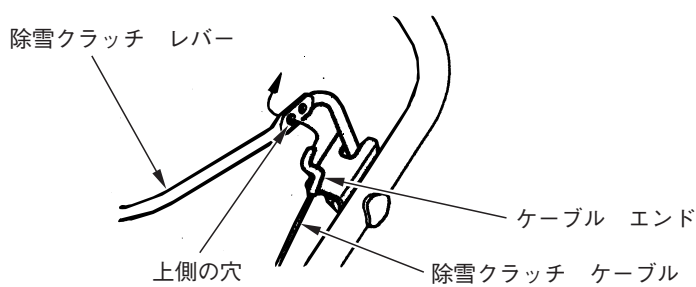
1. スプリング　カバーを引き上げます。
2. 除雪クラッチ　ケーブルの点検、調整を行います。
3. 除雪クラッチ　レバーを握った状態で、ベルト　テンション　スプリングのコイル部分の長さを測定します。
   スプリング長さ： 78 mm 以上



4. スプリングの長さが規定値以下の場合は除雪クラッチ　レバーからケーブルエンドを外し、上側の穴に掛け換えます。

取扱いのポイント

この調整が適性でないとベルトが滑って除雪中に除雪部が止ってしまったり、ベルトの寿命が縮まる原因になったりします。

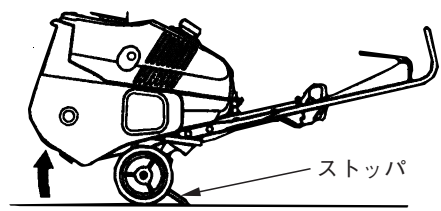


5. 再度、スプリング長さを測定します。
   規定値以下の場合は、お買いあげ販売店にご相談ください

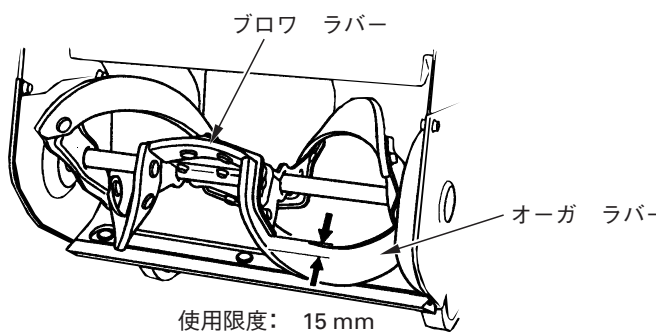
オーガ　ラバー、ブロワ　ラバーの点検

オーガ ラバーやブロワ ラバーが摩耗すると本来の除雪能力を得ることができません。またオーガ ハウジング下端部を損傷させます。

1. オーガ ラバー、ブロワ ラバーが確実に取付けられているか、点検します。
2. 本機を傾ける場合はストッパを利用してハウジングの前面を上げると便利です。（但しそれ以上後傾させないでください。）



3. オーガの先端からオーガ ラバー、ブロワ ラバー先端までの寸法を計り、下記寸法以下になった場合は交換が必要です。
   限界値：15 mm



- 交換の際はお買いあげ販売店にご相談ください。
- オーガ ラバー、ブロワ ラバー交換の際は、スクレイパ ブレードの点検をお奨めします。（33頁参照）

長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)のガソリンを抜きます。

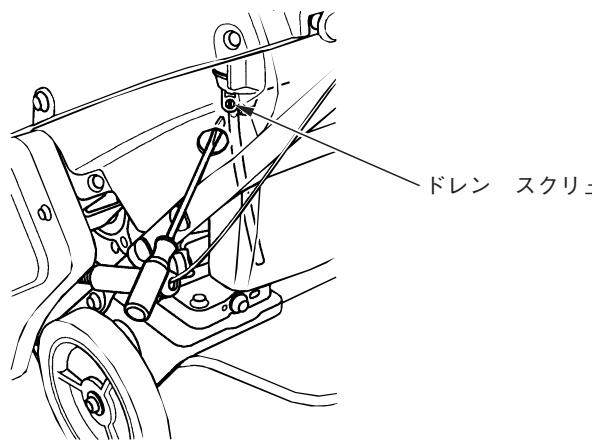
《抜きかた》

a. 燃料コック　レバーを“出”に合わせます。

b. 気化器のドレン　スクリュをゆるめてガソリンを容器に受けます。

c. 完全にぬけたらドレン　スクリュを確実に締付けます。

d. 燃料コック　レバーを“止”にします。



⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・換気の良い場所で行ってください。

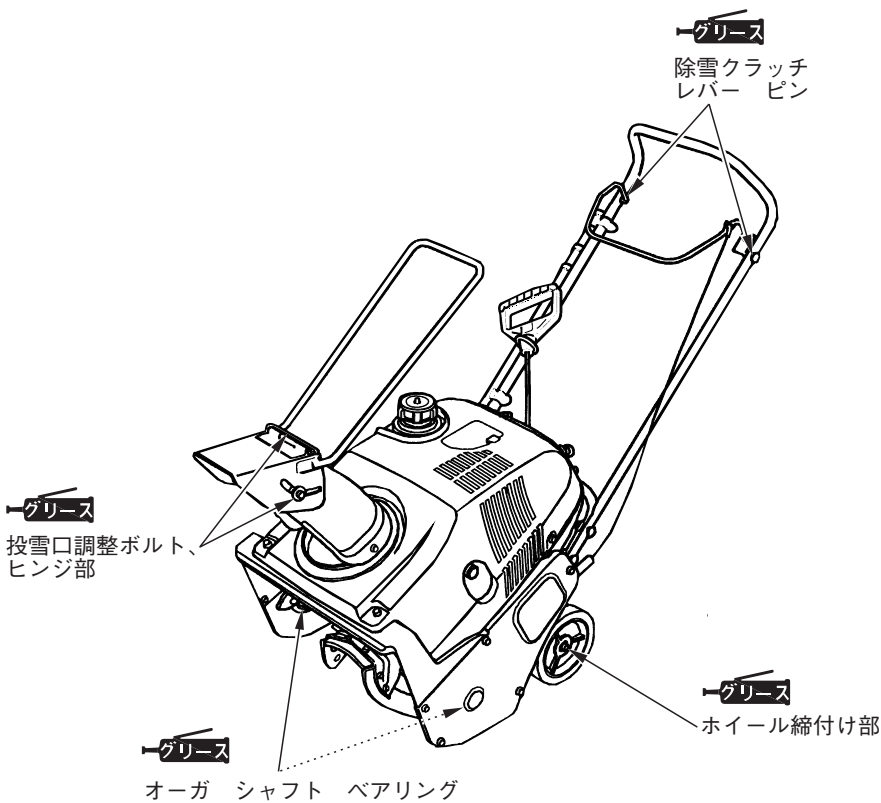
・火気を近づけないでください。

・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

2. 点火プラグ　カバーと点火プラグを取り外し、スプーン1杯ほどのきれいなエンジン　オイルをシリンダに注入します。始動グリップをゆっくりと引いて、オイルをまんべんなく行き渡らせます。その後点火プラグを取付け、点火プラグ　カバーを取付けます。
3. 始動グリップを引き重くなったところで止めて、静かにグリップを戻します。(吸排気の弁が閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)

• 保管時の給油箇所

作業を終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にグリース(低温用)を塗布してください。



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか?
2. ガソリンはありますか?
3. 燃料コック　レバーは"ON"(出)の位置になっていますか?
4. エンジン　オイルは規定量ありますか?
5. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
6. 点火プラグは汚れていませんか?

下記のような症状のときは次の点を確かめましょう。

症　状	確認項目
・投雪性能が極端に悪い	・オーガ　ラバー、ブロワ　ラバーの摩耗 ・オーガ　ベルトのゆるみ ・エンジン回転数が低い
・一般的な雪づまりが多発する	・オーガ　ラバー、ブロワ　ラバーの摩耗 ・オーガ　ベルトのゆるみ ・エンジン回転数が低い
・作業中オーガが雪をかんで停止してもエンジンが停止しない。	・オーガ　ベルトのゆるみ
・除雪後の仕上がりが悪い	・スクレイパ　ブレードの取付け不良、摩耗 ・オーガ　ラバーの摩耗
・自走しないまたは押荷重が重い。	・オーガ　ラバーの摩耗 ・ブロワ　ラバーの摩耗 ・スクレイパ　ブレードの調整不良 路面の凹凸 積雪量が多い ホイールの固着、給油不足
・投雪方向距離調節ハンドルが重いまたは動かない。	・投雪方向調節部の固着、給油不足

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　　要　　諸　　元

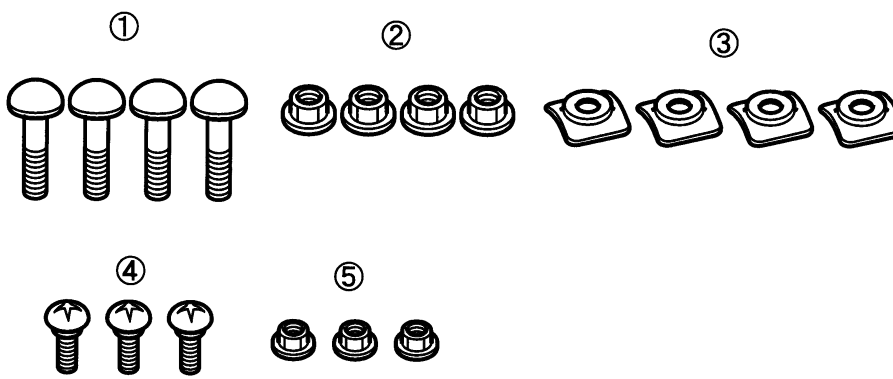
名		称	HS550
エンジン	型	式	GC160
	最	高 出 力	3.7 kW (5.0 PS)/3,600 rpm
	排	気 量	160 cm^3
	内	径 × 行 程	64 × 50 mm
	始	動 方 式	リコイル　スタータ
	点	火 方 式	トランジスタ　マグネト式
	オ	イ ル 容 量	0.6 ℓ
	燃	料タンク容量	1.3 ℓ
	点	火 プ ラ グ	BPR5ES (NGK)
フレーム	全	長	1,210 mm
	全	幅	530 mm
	全	高	980 mm
	乾	燥 重 量	37 kg
	除	雪 幅	500 mm
	除	雪 高	306 mm
	投	雪 距 離	前：8 m、左：5 m、右：5 m

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

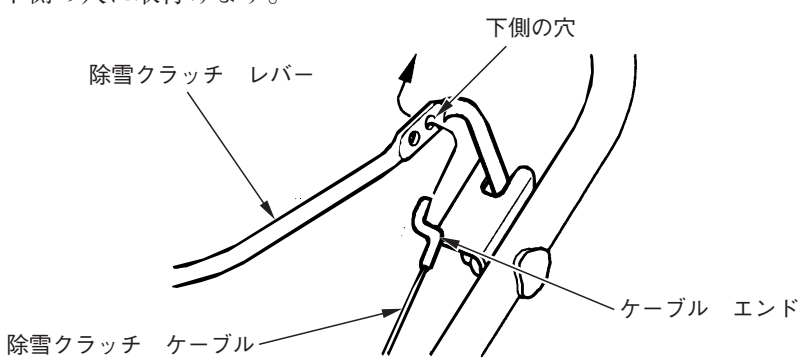
同梱部品の組付け方

部品リスト

番号	部品名称	個数
①	8 × 40 mmハンドル　セット　ボルト	4
②	8 mmフランジ　ナット	4
③	9 mmハンドル　セット　ワッシャ	4
④	6 × 12 mmスペシャル　ボルト	3
⑤	6 mmセルフ　ロック　ナット	3

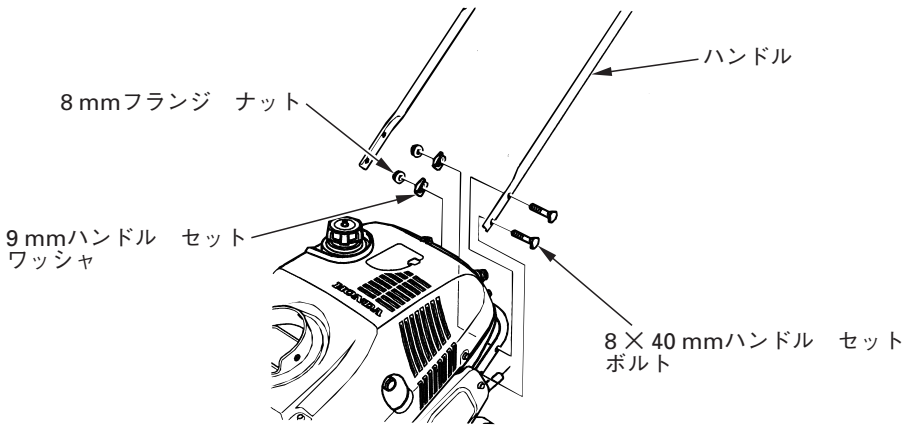


1. 除雪クラッチ　レバーに除雪クラッチ　ケーブルのケーブル　エンドを図のように下側の穴に取付けます。

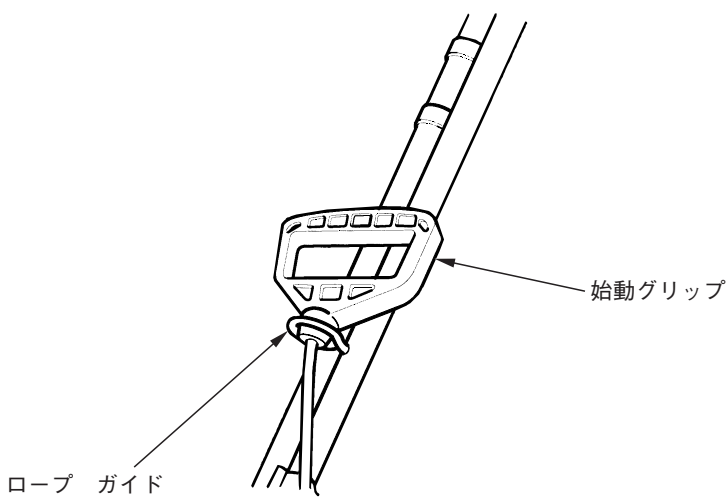


2. ハンドルをフレームに取付け、8 × 40 mmハンドル　セット　ボルト①、8 mmフランジ　ナット②、9 mmハンドル　セット　ワッシャ③各 4 個で確実に締付けます。

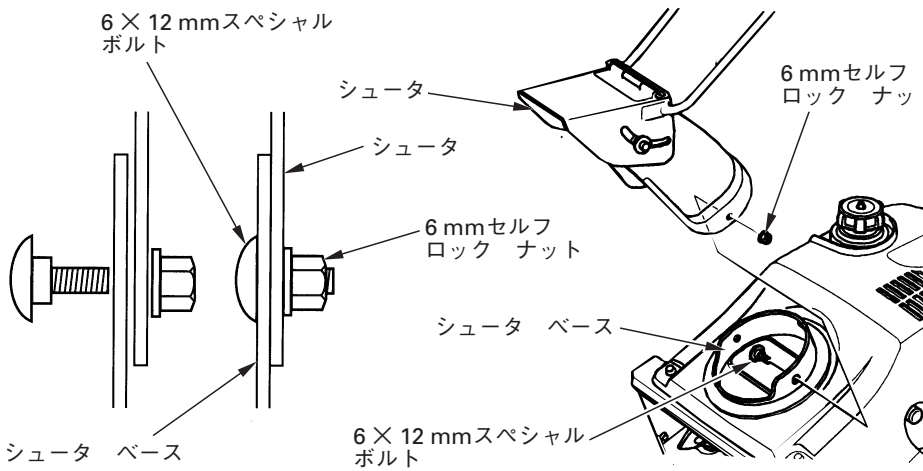
8 mmフランジ　ナットは12 mmのスパナを使用してください。



3. 始動グリップをロープ　ガイドに通します。



4. シュータ　ガイドを取付け、6 × 12 mmスペシャル　ボルト④、6 mmセルフ　ロック　ナット⑤各3個を確実に締付けます。
6 × 12 mmスペシャル　ボルトは、⊕のドライバーを、6 mmセルフ　ロック　ナットは10 mmのスパナを使用してください。



メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

HONDA

The Power of Dreams

30V10600
00X30-V10-6000

©2015 本田技研工業株式会社